

サーチライト With Pastor Jon 創世記 10 章 パート 2

創世記 10:6 ハムの子らはクシュ、ミツライム、プテ、カナン。

ヤフェテ族は、一部はペルシャ（イラン）にも行きましたが、主にはヨーロッパで、ヨーロッパ人です。

ハムの子孫は、一部は中東に行きましたが、主にアフリカに定着しました。

ハムの子孫は基本的にアフリカ人。

息子の一人目はクシュ。

クシュ＝位置的にはナイル周辺、現代のエチオピアでエチオピア人。

クシュ（エチオピア）の人々は特別な肌の色で（エレミヤ 13:23）、背が高い（イザヤ 45:14）

それできっと NBA は、クシュ辺りで選手をスカウトしているのでしょう。

ミツライム＝エジプト

プテ＝リビア

今現在も（*1997 年）カダフィ大佐の政権下にあります。

これだけ長く続いていることに驚きますが、ともかく、彼はプテから出ています。

カナン＝現在のイスラエルの場所

ハム族の子孫の一つであるカナン人は、ここに定着しましたが、彼らの止むことのない汚れと悪のために、完全に断たれ、絶滅しました。

社会的に病み、罪にまみれていたカナン人に、神は 4 世紀にもわたって悔い改めの機会を与えましたが、彼らは性的墮落や社会的不品行を止めようとはせず、子供のいけにえやその他、残虐なことを繰り返したため、神は遂に絶滅を命じたのです。

しかし、これは神の憐みです。

カナン人は自分たちを破壊してだけでなく、地域一帯を汚染していたから。

それで、神はイスラエルに「彼らを根絶しなければならない」と命じたので、カナン人は滅びました。

7 節はクシュの子孫。最後の二人をメモして下さい。

7 クシュの子らはセバ、ハビラ、サブタ、ラアマ、サブテカ。サブテカの子らはシェバ、デダン。

シェバとデダン＝サウジアラビア

ここを強調する理由は、聖書預言を学んでいくと、このシェバとデダンは何度も出て来るから。

特にエゼキエル書 38・39 章。

そこに出て来るマゴグ（ロシア）とゴグ（支配者）、トバル（トバルスク）、メジャク（モスクワ）がイスラエルに向かってやって来る。もう動き始めている。

しかし、ロシアが下ってくる時に、「何をするんだ！」と抗議するシェバとデダンがサウジアラビア。

なぜなら、実際、ロシアは自国の経済を復活させるため、サウジアラビアの油田を狙ってやって来るから。

それはまた別の話として、ここでは、シェバとデダンはハムの息子だということです。

8a クシュはニムロデを生んだ。

これには少し時間を割いて、考えていきたいと思います。

特記すべきはニムロデという名前。意味は“反逆者”

彼は典型的な反逆者で、また、まさしく、これから来るある反逆者の型、像となっています。

それは反キリスト。

はじめに創世記 11 章までが全ての基本となっていると話しましたが、それは聖書預言に於いても関連し、ここで反キリストの型、像が浮かび上がってきているのです。

よく聞いて下さい。

反キリストというのは、これから出て来る世界的リーダーで、世界統一政府、世界統一宗教を建て上げます。

彼はローマ帝国の再建、またはヨーロッパ連合の基礎を固め、パワフルでカリスマ性も説得力もあるもの凄い人物。

私が思うに、反キリストは現在（*1997 年）既にどこかに存在し、時をうかがっている。

聖書には、携挙が起こるまで、反キリストは登場しないと書いてあります。

教会、クリスチャンたちが携挙されて天に挙げられたら、反キリストが表に出て来る。

と言っても、彼が表に出てくる時、胸に大きく AC (Anti-Christ/反キリスト) の印を付けてはいませんよ。

「俺が反キリストだ！俺がリーダーだ！」と言って回ったりしません。

反キリストはその名の通り、主に反する者、または主の位置に立つ者で、世からはメシア、救い主と見られるのです。

驚くばかりの奇跡や不思議を行う、穏やかな一人の人間。

しかし、Ⅱテサロニケ 2 章にも書かれている通り、彼は完全に無法者で、法を無視し、主に背く「不法の人」、KJV では「Wicked」(Ⅱテサロニケ 2:8)

文字通り、法を破る者、反逆の者。

ニムロデの名前は反逆者、反キリストは不法の者、法を破る者。

更に、**不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、(Ⅱテサロニケ 2:9)**

反キリストは超人的な奇跡を行う、と思われるような非常にパワフルな人になります。

ニムロデを見ましょう。

8b ニムロデは地上で最初の勇士となった。

ニムロデは、人が困惑し驚くような、力あることを行いました。

反逆者という意味の名前を持つニムロデは力あることを行った。

反キリストもそうです。

9a 彼は主の前に力ある狩人であった。

新しい訳では、**彼は主に反して力ある獵師になった。**

パワフルで勢力があり、何でもできる反逆者のニムロデは狩人。

これは、『魂』の狩人を暗示しています。

魂を捕る。人を搾取し、破壊し、騙す。

ニムロデが主に反逆したように、まさに、反キリストは主、すなわちキリストに反逆します。

10 節でニムロデはバビロンを建国し、王となり、支配しました。

反キリストもまた、黙示録 17・18 章に出て来るバビロンの王になります。

今はまだ、はっきり見えてこなくても大丈夫ですよ。

とにかくニムロデは、終わりの時、私たちが天に挙げられた後に登場する反キリストの型で、彼が行ったことは預言に関連し、民族的には、現在（*1997年）の世界の状況に関係してとても興味深い。

10 彼の王国の始まりは、バベル、ウルク、アッカド、カルネで、シンアルの地にあった。

ニムロデはバベル（Babel）と呼ばれる王国を建てました。

聖書の中でバベル（Babel）の元来の意味は、“神への入り口”

これが本来の意味であることを知って下さい。

この後、進んで行くと分かりますが、バベルの塔の話以来、“バベル”の意味が全く変わってしまいました。

“混乱”（confusion）という意味に。

現代では、「何をワケの分からないこと（babbling）、言ってるんだ？」などの意味で使いますね。

だけど、本来のバベル（Babel/Babel）の意味は“神への入り口”

もっと言うなら、“天国の門”という意味でも使っています。

彼はこの塔を建てることで、自分が天国への扉、神への入り口を作ろうと考えました。

11章に出て来る天国に届くための塔、バベルの塔。

ちょっと先走ってしまいました。

とにかく、ニムロデ王国の始まりはバビロン。

ここで、典型的な神への反逆という基本的なポイントをつかんでおくと、なぜ、バビロンが黙示録17・18章に至るまで、何度も何度も出て来るのかが理解できるでしょう。

神に対する反逆者、ニムロデ、バベル。

今日の誤った人本主義的システムが持つ、あらゆる反逆の根は、このバビロンから来ているのです。

神への入り口、天国の門。

「コンピューターなどのあらゆる技術を用いて、スペースシャトルで宇宙へ行こう。」

つい先日も（*1997年）、“ヘブンズ・ゲート”関連の悲しい事件が起きましたね。

それらの根本は、人間の技術と知識に頼る“神への入り口、神への反逆”から来るのです。

11節、ここに書いてあることを見てメモして下さい。

11 その地から彼はアッシュルに進出し、ニネベ、レホボテ・イル、カルフ、

具体的に、彼とは誰？ ニムロデです。

彼はアッシュル（アッシリア）に進出し、ニネベを建てました。

覚えていませんか、ニネベ。ヨナ書に出て来る町ですね。

ニネベはアッシリアの首都で、ヨナはそこへ行くはずでした。

これを指摘する理由は、皆さんに知っておいて欲しいから。

それは、ニムロデはバビロンだけではなく、アッシリア帝国の建国の父でもあるということ。

アッシリアはBC722年に下って来て、北王国のイスラエル部族を捕囚として引っ張っていきました。

BC605年にはバビロンが下って来て、南王国のユダに攻め入り、BC586年にエルサレムを破壊し、神殿を焼き払ってイスラエル国を潰したのです。

聖書史に登場する巨大な勢力を持ったアッシリアとバビロン。

この二つの国に共通するルーツ、建国の父、それがニムロデです。

非常に興味深いことですね。

そして次…

14 節にはペリシテ人が登場します。

**13 ミツライムが生んだのは、ルディ人、アナミム人、レハビム人、ナフトヒム人、
14 パテロス人、カスルヒム人、カフトル人。このカスルヒム人からペリシテ人が出た。**

巨大なペリシテ人と言えば、思い浮かぶのは誰ですか？

サムソン（*会衆）…じゃなくて…ゴリアテ！

まあでも、サムソンもそうですね。いいんですよ。

サムソンもペリシテ人を相手に戦ったから関係あります。

でも、ここではゴリアテ。

もう一つ特記すべきは 17 節に登場するシニ人。

15 カナンが生んだのは、長子シドン、ヒッタイト、

16 エブス人、アモリ人、ギルガシ人、

17 ヒビ人、アルキ人、シニ人

リストの最後にあるシニ人。ここで気付いた人もいるでしょう。

シニ=中国

シニは中国人、日本人などアジア人の祖先で、興味深いことにアジア人もハムの子孫です。

まだまだ発見すべきことがたくさんあるのですが、次へ進みましょう。

次はセムの子孫。

21 セムにも子が生まれた。セムはエベルのすべての子孫の先祖であり、ヤフェテの兄であった。

ここ、エベルをチェックしておいて下さい。聖書にアンダーラインするかマーキングの方がいいですよ。

これは、聖書で最初に登場するエベル人。すなわちヘブル人。

セムは全てのエベル人、ヘブル人の先祖です。

今日何度も言いましたが、アドルフ・ヒトラーのような反ユダヤ主義（anti-Semitic/anti-Jew）の人々。

歴史の初めからずっと、サタンは人間にユダヤ民族を絶滅させようとしてきました。

なぜですか？

メシアが出るのを妨げるため。

しかし、メシア・イエスが生まれた後でさえ、再建のユダヤ国家を存続させないために反ユダヤが続いている。

なぜですか？

イエスの再臨を阻止するため。

イエスは再臨して、どこで支配するのですか？

エルサレムですね。ユダヤ民族を。

実際は全世界ですが、ユダヤ民族が土台になります。

だからサタンは、しつこく反ユダヤを貫くのです。

これが、はじめから現代に至るまで、ユダヤ人が迫害され続けている唯一の説明です。

サタンは、どうにかしてユダヤ人を、セムの子孫、エベル人、ヘブル人を消し去ると決意している。

ところで、ヘブルの意味は『渡る』『渡った人』『移動してきた人』

ヘブル人の歴史を学ぶと、要所要所で離れ去っていますね。

父祖アブラハムはウルを離れ、ヘブル人はモーセの指導でエジプトを去り、神が住まわせると約束した地へ渡ってきました。

もう一つ、興味をそそられる記述があります。

25 エベルには二人の息子が生まれ、一人の名はペレグであった。その時代に地が分けられたからである。

彼の兄弟の名はヨクタンであった。

ペレグ、彼の時代に地が分けられました。

ここで言う“地”とは、『エレッツ (ERETS)』

これはとても重要です。

なぜなら、『エレッツ (ERETS)』とは地上の人々ではなく、常に“地”そのものを表すから。

この箇所を「人々が分けられた」と解釈する人も多いのですが、そうではない。

地が分けられたのであって、人ではありません。

これは文字通り、物理学的、地質学的に、地そのものが分けられたのです。

そこでまた、「だから？」でしょう？

多くの人がぶつかる疑問への答えを言いますよ。

ノアは、それぞれつがいの動物たちと共に箱舟から出てきましたね。

ここでよく言われるのが、「動物たちは一体どうやって、アララト山の頂上から中東の中に行ったんだ？」

「どうやって、世界中に広がった？」

「有袋類が、カンガルーが、どうやってオーストラリアに渡ったの？ 完全に海で囲まれているのに。」

「もし箱舟から出て来たとするなら、どうやってそこまで行ったか？」

そこで25節が大きなヒントになるのです。

昔、地球、陸地は今のように分かれていませんでした。

“大陸漂移（移動）説”、学校で習ったことはありませんか？

地球儀を見ると、大陸同士が以前は互いにかみ合っていたかのように見えます。

南アメリカをアフリカに合わせてみたり、それぞれの大陸を、一つ一つ合わせていくとどうでしょう。

大陸漂移（移動）説について、うまく描かれたドキュメンタリーがありましたが、大陸は今でも、まだ移動し続けていて、段々と離れて行っているとのこと。

この箇所は、ペレグの時代に大規模な大陸移動が起こったことを示しています。

これはまた、氷河期に関しても、事実を理解するのに大きな手がかりとなります。

地球を覆っていた水の幕の崩壊によって、洪水後、大変な変化が起こりました。

以前、お話ししましたね。

水のブランケットが地球全体を覆っていて、その間には大気があり、この水の幕によって、地球全体が温暖な環境に保たれていました。

地球は住み心地の良い場所だったのに、水の幕が崩壊して大洪水が押し寄せたのです。

だから洪水の後、それまでのように900歳までは生きられなくなりました。

環境が根本から変わってしまったから。

かつては地球を覆っていた水の幕が崩壊したために、今では、紫外線やその他、あらゆる環境問題に悩まされるようになってしまいました。

これらのことを研究している科学者、地質学者によると、水の幕の崩壊によって氷河期が始まったのは間違いのないということです。

科学的に書かれたものなら、これがおススメ。

Dolph Hooker 博士の “The Astounding Ice Age”

博士によると、氷河期は徐々に起こったのではなく、逆に、一瞬にしてその大異変が発生しました。

例に挙げているのが、巨大な氷河の中で発見されたマンモスの口の中には、新鮮な植物があったこと。

つまり、彼らは干からびていない新鮮な植物を食べている時に、瞬時に氷、氷河に閉じ込められたということです。

博士は、氷河期が突然到来したらどうなるのかを指摘しています。

そして、世界が経験した、突然に連続して起こったいくつかの大氷河期によって、海が大規模に干上がったのだとはっきり記しているのです。

知れ。主こそ神。

主が 私たちを造られた。

私たちは主のもの 主の民 その牧場の羊。

感謝しつつ 主の門に 賛美しつつ その大庭に入れ。

主に感謝し 御名をほめたたえよ。(詩篇 100 : 3-4)

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コースン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。
